

アフリカ州 — 第一次産品にたよる経済とそこからの転換 —

所属	関ヶ原町立今須中学校	実践者	藤井 健太郎
対象	中学1年生	時間数	7時間
場所	教室、ワークスペース	実践教科	社会科
ねらい	アフリカ州の多くの国々が歴史的な背景のもと第一次産品に依存した輸出を行っており、経済的基盤の脆弱性を理解することができる。また、そこから転換を図ろうとする新たな取組についても理解を深め、日本の支援活動とつながりがあることに気付くことができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆アフリカ州をながめる ・州内の国や都市、地形を白地図に書き込む。 ・4都市の雨温図を読み取る。(ラバト、カイロ、リーブルビル、ケープタウン) ・貿易統計(輸出)を読み取る。	・白地図 ・雨温図 ・貿易統計
	2	◆アフリカ州の歴史的背景 ・資料から調べる。 ・調べたことを交流する。	・社会科資料集
	3-4	◆アフリカ州の経済的基盤① —世界の中のアフリカ州— ・「新・貿易ゲーム」をする。 ・ゲームを振り返る。 グループ間で利潤の格差が生じた要因について考える。	・「新・貿易ゲーム」 開発教育協会 かながわ国際交流財団
	5	◆アフリカ州の経済的基盤② —ガーナのカカオ豆輸出— ・ガーナ共和国の貿易(輸出)について知る。 ・カカオ豆が輸出される経路の写真を並べ替える。 ・カカオ豆の生産過程の写真を並べ替える。	・株式会社明治 HP ・ガーナ産カカオ豆 ・ガーナで撮影した写真
	6	◆アフリカ州の産業構造の転換① —具体的な事例から— ・産業構造の転換を図る取組について調べる。 ①マラウイ共和国の一村一品運動(OVOP) ②ガーナ共和国のパイナップル生産	・国際協力機構 HP ・ガーナで撮影した写真
	7	◆アフリカ州の産業構造の転換② —私たちからの提案— ・産業構造の転換を図るための提案を考える。	
	成果	・教師海外研修での写真や資料、具体的な事例を活用することで、学習意欲が高まった。 ・体験的な活動や調べ学習を位置付けたことで、アフリカ州に対する理解が深まった。	
課題	・産業構造の転換を図る具体的な事例を、さらに複数提示できるとよい。 ・生徒が考えた提案を第三者に発信することや、具現化する方途があるとよい。		
備考	・第1時において単元の主題を設定する。 ・第2～7時までは、4名程度の小集団を母体とする協同的な学習を基本とする。 ・毎時間の終末には、学習した内容を記述する言語活動を位置付ける。		

[授業実践の詳細]

1 時限目「アフリカ州をながめる」

1 子どもの活動の流れ

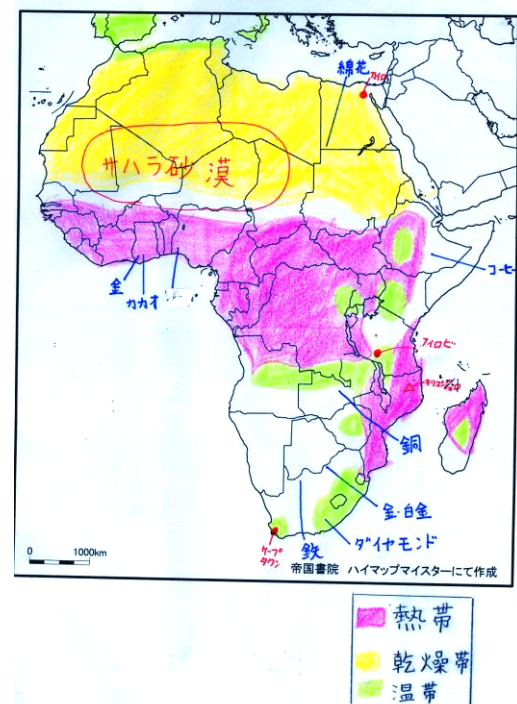
- ① 州内の国や都市、地形を白地図に書き込む。
生徒が知っている国や都市、地形などを想起するとともに、地図帳で新たに調べて白地図に書き込んでいく。
- ② 4都市の雨温図を読み取る。
ラバト、カイロ、リーブルビル、ケープタウンの4都市の雨温図を読み取り、各都市がある地域の気候の特色をつかむ。そして属する気候帯を考え、白地図に色分けする。
- ③ 貿易統計(輸出)を読み取る。
コートジボワール、タンザニア、ナイジェリア、南アフリカ共和国の輸出統計を読み取り、アフリカ州の国々の輸出に共通する特色をつかむ。

この時限のねらい

白地図に地形や国、都市、気候を書き込む活動を通して、アフリカ州の自然環境や国、都市などの地理的位置、貿易などを大観することができる。また、単元の学習への見通しをもつことができる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 歴史的分野での学習において、ナイル川流域でエジプト文明が発達したことを学習している。生徒の既存の知識を想起したことで、アフリカ州の学習に対する意欲をもつことができた。
- ◇ 4都市の雨温図を提示することで、アフリカ州には多様な気候帯があることに気付くことができた。アフリカ州は、「暑い」「砂漠」など熱帯や乾燥帯を連想する生徒が多かったが、温帯の地域もあることに驚いた様子だった。
- ◇ 貿易統計(輸出)からは、石油、金などの鉱産資源とカカオ豆、コーヒーなどの商品作物が輸出の多く占めていることに気付くことができた。生徒の中には、金やダイヤモンドが産出・輸出されることに“経済的な豊かさ”があるのではないかと考える生徒もいた。



<生徒が書き込んだ白地図>

3 使用した教材

- <教材1> アフリカ各地の気温と降水量 / 「新しい社会 地理」東京書籍
- <教材2> 農産物や鉱産物にかたよる輸出品 / 「新しい社会 地理」東京書籍

2 時限目「アフリカ州の歴史的背景」

1 子どもの活動の流れ

- ① 前時の復習をする。
貿易統計からアフリカ州の国々の輸出について復習をする。そして、本時は「なぜアフリカ州の国々の輸出は、第一次産品(鉱産資源や商品作物)が多いのか。」について調べることを確認する。
- ② 資料から調べる。
おもに、2つの資料をもとに調べ学習に取り組む。1つは、アフリカ州の鉱産資源の埋蔵量に関する資料。もう一つは、ヨーロッパ諸国による植民地支配に関する資料とする。資料の内容を読み取り、ノートに書き出していく。
- ③ 調べたことを交流する。
個人が資料から読み取ったことを、グループ内で交流する。

この時限のねらい

資料を通して、鉱産資源が豊富であること。またアフリカ州の多くの国々は、19世紀末までにヨーロッパ諸国の植民地となり、特定の産品を栽培するなどプランテーション化が進められた歴史的背景があることを理解できる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 生徒は、「なぜアフリカ州の国々の輸出は、第一次産品(鉱産資源や商品作物)が多いのか。」という問いに対して、「豊かさ」という予想をもつことができた。しかし、歴史的な背景とのつながりに対する予想は、聞かれなかった。
- ◇ アフリカ州のプラチナやダイヤモンド、コバルトの埋蔵量は世界の50%以上を占めており、多く産出されること。またケニアのホワイトハイランドでは、茶栽培に代表される大規模なプランテーションが開かれ、植民地支配の名残が続いていることを読み取ることができた。そのため、今日でもヨーロッパ諸国とのつながりが深いことにも気付くことができた。
- ◇ 生徒は、歴史的背景は理解しつつも「埋蔵量」と「大規模農業」という点から、アフリカ州の国々には経済的な豊かさがあると認識している様子だった。



まとめている様子>

アフリカ州はアフリチヤや石油、天然ガスなど鉱産資源が豊富です。また、ホワイトハイランド、とよばれるケニアの高原地帯があります。そこではイギリス向けの大規模な茶畑が広がっています。アフリカ州は19世紀末ヨーロッパから植民地として支配されていました。宗主国のために輸出してきた歴史があります。なので、鉱産資源や農作物にかたよって輸出しているのがわかります。

<学習のまとめの記述>

3 使用した教材

- <教材3> アフリカの鉱産資源埋蔵量の世界に占める割合 / 「ビジュアル地理 世界・日本」東京法令出版
- <教材4> ホワイトハイランドの茶栽培[ケニア] / 「ビジュアル地理 世界・日本」東京法令出版
- <教材5> 分割されたアフリカ / 「新しい社会 地理」東京書籍

3-4 時限目「アフリカ州の経済基盤① —世界の中のアフリカ州—」

1 子どもの活動の流れ

① 「新・貿易ゲーム」をする。

A～Dの4つのグループを編成し、各グループに配布されたモノを使って製品を作る。完成した製品は、マーケットで買い取ってもらう。ゲーム終了時まで、できるだけ多くの利潤を得ることを目指して取り組む。ルールの説明を聞き、ゲームを開始する。

② ゲームを振り返る。

結果発表を聞き、グループ間で利潤の格差が生じた要因について考える。そして配布されたモノとゲームの意味についても考え、世界におけるアフリカ州の国々の経済的な立場を考えていく。

この時限のねらい

資料を通して、鉱産資源が豊富であること。またアフリカ州の多くの国々は、19世紀末までにヨーロッパ諸国の植民地となり、特定の産物を栽培するなどプランテーション化が進められた歴史的背景があることを理解できる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ゲームが始まり、ハサミが製品作りにおいて不可欠なモノであることに気付く。ハサミを持たないグループは、他のグループとの交渉を始める。ハサミを持つグループは自らの製品作りに励み、交渉にはなかなか応じない。ハサミを持たないグループは、似た状況にあるグループに声を掛け、協同して製品作りを始めた。
- ◇ 結果は、A、B、C、Dの順に利潤を多く確保した。特に、Aグループと他のグループとは大きな格差が生じた。その理由について、生徒は次の3点が要因であると考えた。まず1つ目は、保有していたモノの違いである。Aグループは、ハサミや定規、分度器、お金などが揃っていた。逆にDグループにはなく、この違いが大きな要因だと考えた。2つ目に、取引の仕方である。取引では、モノやお金があるAグループは優位に交渉できたが、Dグループでは交渉が難しかった。3つ目は、生産の仕方である。効率よく生産できたAグループと、交渉に時間を取られた他のグループの違いが結果に表れたと結論付けた。
- ◇ 「このゲームは何を表しているか。」と問うと、「世界の貿易」だという声が出てきた。そして、ハサミや定規、分度器は技術を表していること。お金は資本、紙は原料となる資源であることに気付くことができた。その上で、「アフリカ州の国々は、A～Dのどれであるか。」と問うと、ハサミや定規、分度器はないが、紙が多くあったCグループだと答える。鉱産資源や商品作物が主な輸出品であるアフリカ州の貿易の特徴を理解し、既習内容とつなげて考えることができた。
- ◇ アフリカ州の国々は、世界経済の中において利潤を得ることは難しい状況にあることを理解することができた。そして、前時までに生徒が抱いていた経済的な豊かさというイメージとの違いに、戸惑った様子が見られた。



<授業の様子(第4時)>

3 使用した教材

<教材6> 「新・貿易ゲーム」 / 開発教育協会・かながわ国際交流財団

5 時限目「アフリカ州の経済基盤② ーガーナの 카카오豆輸出ー」

1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナ共和国の貿易(輸出)について知る。
ガーナ共和国の貿易統計から輸出品目について調べ、カカオ豆の占める割合について読み取る。
- ② カカオ豆が輸出される経路の写真を並べ替える。
カカオ豆が輸出される経路の写真6枚をながめ、写真が表す状況について考える。そして輸出順に並べ替え、発表する。
- ③ カカオ豆の生産過程の写真を並べ替える。
カカオ豆が生産される過程の写真5枚をながめ、写真が表す作業について考える。そして生産順に並べ替え、発表する。

この時限のねらい

ガーナ共和国の主要な輸出品であるカカオ豆の貿易経路について考え、貿易ゲームでの学びを具体的な事例として理解を深めることができる。また、カカオ豆をはじめとする一次産品が日本にも多く輸入され、アフリカ州の国々と経済的なつながりがあることも分かる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナ共和国の輸出は、金、石油、カカオ豆が主要な品目であり、第一次産品に依存していること。また、その中でもカカオ豆はイギリス統治時代より続く貴重な商品作物であり、今日でも高い割合を占めていることを読み取ることができた。
- ◇ 生産されたカカオ豆は、買付業者による検査を受け、倉庫にて保管。その後、船舶を利用して日本へ運ばれ、製菓工場でチョコレート製品に加工される。生徒たちは、写真が表す状況について意見を交わし、協同して並べ替えていった。
- ◇ 実際のカカオ豆を手にした生徒たちは、ほのかに香るチョコレートの匂いに喜ぶ。身近なチョコレートの原料であり、初めて見るカカオ豆がどのように生産されているか、意欲的に考えていった。特に日本は、輸入するカカオ豆の70%以上がガーナ産であり、馴染み深い。白い綿のついたカカオ豆を知らない生徒たちは、それが何かと考える様子が見られた。カカオポッドから取り出したカカオ豆を繰り返し発酵するという手間のかかる作業が行われていることに、驚いた様子だった。



<カカオ豆の生産過程を並べ替える様子>



<カカオ豆を手にする生徒たち>

3 使用した教材

- <教材7> ガーナ産カカオ豆(実物) / 教師海外研修(カカオ農家)
- <教材8> ガーナの貿易(主要輸出品) / 教師海外研修(伊藤忠商事資料)
- <教材9> トレーサブルカカオ豆の農園から(株)明治の工場まで / (株)明治ホームページ
- <教材10> カカオ豆生産の写真 / 教師海外研修(カカオ農家にて撮影)

6 時限目「アフリカ州の産業構造の転換① 一具体的な事例から」

1 子どもの活動の流れ

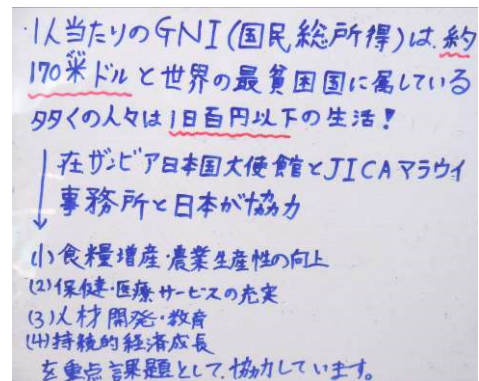
- ① 「新・貿易ゲーム」での学習内容を想起する。
ゲームを通して学習した内容を思い出し、アフリカ州の国々がおかれる経済的な立場をあらためて確認する。
- ② 産業構造の転換を図る具体的な取組について調べる。
グループごとにマラウイ共和国の一村一品運動、またはガーナ共和国のパイナップル生産のどちらかを選択する。それぞれの取組に関する資料を読み、内容をまとめる。
- ③ 調べたことを発表する。
調べたことをホワイトボードにまとめ、他のグループに向けて発表する。

この時限のねらい

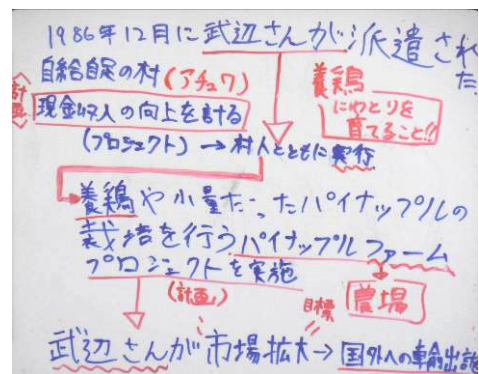
第一次産品が主要な輸出品となっているアフリカ州において、第二次産業の振興を図る具体的な取組があることを理解する。そして、マラウイ共和国の一村一品運動とカーナ共和国のパイナップル生産について調べることができる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ マラウイ共和国の一村一品運動は、日本の大分県での事業をモデルとして始まった。コミュニティーの人と資源を活用した一品を生み出し、住民主導で地域振興を図る取り組みである。こうした内容について協同してまとめ、発表することができた。
- ◇ ガーナ共和国のパイナップル生産は、将来性のある商品作物の育成を目標に一人の青年海外協力隊員が始めた。現在ではヨーロッパへの輸出をはじめ、ジャムなどの加工品の製造も試みられている。こうした内容について協同してまとめ、発表することができた。
- ◇ 1年生の生徒にとっては発展的な内容であり、内容を理解することに時間を要した。しかし、両国での取組に共通している“技術力の向上を図る”という点には気付くことができた。ゲームを通して技術が不足していることを実感しているため、日本などの支援を受けながら生産性の向上や付加価値の創出に取り組む事業であると結び付けて考えていった。



<一村一品運動について調べた内容>



<パイナップル生産について調べた内容>

3 使用した教材

- <教材 11> 大分発、マラウイで広がる一村一品運動 / 国際協力機構ホームページ
- <教材 12> ガーナの小さな村で今でも語り継がれる若者 / 国際協力機構ホームページ
- <教材 13> パイナップル畑の写真 / 教師海外研修(エカムフィ郡にて撮影)

7 時限目「アフリカ州の産業構造の転換② ー私たちからの提案ー」

1 子どもの活動の流れ

- ① これまでの学習内容を振り返る。
毎時間ごとに記述した学習のまとめを読み、これまでの学習内容を振り返る。
- ② 第二次産業の振興を図る取組を考える。
生産性の向上や付加価値の創出を図り、第二次産業の振興につながる具体的な取組を協同して考え、発表する。

この時限のねらい

これまでの学習をもとに、アフリカ州の国々がおかれる経済的な立場を勘案し、第二次産業の振興を図る新たな産業振興策を提案することができる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 右図の①は、第5時においてカカオ豆が生産される過程を学習した。その中で、カカオポッドから取り出したカカオ豆には白い綿が付着しており、食すと甘いことを学んだ。それを活用できないかと考えた。また、パイナップル生産において日本からの青年海外協力隊員の尽力があったことも第6時で学習している。こうした点を踏まえた提案である。
- ◇ 右図の②は、アフリカ州の気候が赤道付近を中心に熱帯が広がることを学んだ。そこから、カカオ豆やパイナップルに加え、さらに多様な商品作物を生産することで経済基盤の安定を図ろうとする提案である。
- ◇ 右図の③は、アフリカ州の前に学習したヨーロッパ州での取組を参考にしている。ヨーロッパ州では、EU(ヨーロッパ連合)による大規模な経済圏が形成されている。そして、域内での関税撤廃など経済的な協力関係を築き、航空機産業に代表される国境を超えた生産体制を可能にしている。そこで第1時の学習において、南アフリカ共和国は機械類、鉄鋼、自動車を輸出しており、他のアフリカ州の国々とは違い高い技術力を有する。その高い技術力をもつ南アフリカ共和国を中核とし、各国の資源を活かした産業振興を図ることを目指した提案である。EUのように、アフリカ州という地域内での経済的な協力関係を築いていこうと考えた。

- ①カカオポッドから取り出したカカオ豆に付着している、白い綿を製品化する。そして、そのために日本人を派遣する。
- ②新しい商品作物を生産する。例えば、ドラゴンフルーツやシークワサーなど熱帯で生育するもの。
- ③南アフリカ共和国が中核となり、国同士が協力して事業を始める。

<生徒が考えた振興策の提案>

■ 全体を通して

ガーナ共和国への教師海外研修に参加したことで、今ではアフリカ州がとても身近に感じられる。そして、教師が身近な地域として授業実践したことで、生徒もまた身近な地域として学習することができた。とくに、日本との“つながり”を盛り込んだことが大きな成果だと考える。カカオ豆や青年海外協力隊などの事例は、生徒とアフリカ州との距離感を一気に縮めた貴重な教材であった。最後に、本実践は中学校社会科のカリキュラム内に位置付け、実践している。それゆえ特別な学習ではなく、教科学習の一部として生徒は学び、思考の流れの中で理解を深めることができた。「世界の諸地域」のアフリカ州を扱う学習において、単元構成や内容の参考となれば幸いである。